

# タンデム学習の実態と対策

-成功する自律相互学習のために-

仁科陽江 (エアフルト大学)  
yoko.nishina@uni-erfurt.de

## 1. はじめに

海外における日本語学習者が、教室の外でいかにして日本語学習の機会を得ることができるか。その一環で、体験交流活動のプロジェクトを論文集 22 号で紹介した<sup>1</sup>。今回は、ドイツ語でいう「タンデム」について検証したい。その実態と問題点を探り、改善策として実践したことを報告し、今後の展望について考える。

## 2. タンデムとは

### 2.1. 定義

タンデムとは、学習言語の母語話者であるパートナーとともに、外国語を自律的に学ぶ相互学習の方法である。英語で言ういわゆる language exchange であるが、もともと二人乗りの自転車として知られていた英語の Tandem という言葉が、「二つの駆動部分があるもの」という意味を経て、二人で行う外国語学習の意味でドイツ語になったようである。外国語教育関係の文献では最近では英語でも外国語学習のメソッドとして Tandem という言葉が用いられている<sup>2</sup>。ドイツでは、さらに意味が拡大して、外国語学習に限らずいろいろな分野で使われるようになった。つまり、一人だけでがんばっていないで、他の人と一緒にやろう、同じ興味関心を持つ人と、経験やアイディア、意見を交換することによって、さらに自分の考えや能力を伸ばそう、という意図で用いられている<sup>3</sup>。

Bammerts 2001 は、タンデムを次のように定義する。「タンデムでの語学学習では異なる母国語をもつ二人が一緒にそして相互に学ぶ。その際、次のことを目指す。パートナーの母国語における自分のコミュニケーション能力を高める。パートナーの人と文化背景を知る。パートナーの知識や経験を学ぶ。たとえば職業、特技、趣味など。」<sup>4</sup>

タンデムはあくまで学習者同士の相互学習であり、チューターやプライベート・レッスンとは異なる。自由な形で母語話者とともに外国語を楽しく学ぶ、という学習形態なので、やったことがある、今もやっている、という人が学内にも必ずいるのが現状である。

---

<sup>1</sup> 仁科 2010

<sup>2</sup> たとえば, Lewis, Tim & Walker, Lesley (Eds.) 2003

<sup>3</sup> たとえば、学生食堂のタンデムの例

<http://www.stw-thueringen.de/menu-oben/mensen-cafeterien/aktionen/tandem.html>

<sup>4</sup> Bammerts, H. 2001:10 仁科訳

## 2.2. タンデムの分類と方法

タンデムの分類として、方法による分類と習得分野による分類が考えられよう。従来から行われている方法としては、パートナーを見つけて定期的に会って行う対面タンデムであるが、E-Tandem と呼ばれる遠隔地タンデムも台頭してきた。後者は、手紙、電話、FAX、Eメール、SMS (short message system、携帯メール)、そのほか Instant Message、チャット、ビデオ電話やビデオ会議など、インターネットを用いた様々なメディアによる。

習得分野による分類としては、聞く・話すに重点をおいたタンデムが、対面タンデムの性格から実際には多いようであるが、勉強をするためのタンデムであるという意識から、漢字を覚えたり、作文を添削したり、という読み書きの分野も好まれる。意識するとしないとにかかわらず、国事情・異文化理解も、実はタンデムならではの習得分野として貴重である。たとえばゲッティンゲン大学では、異文化理解 (Interkulturelle Germanistik) を専攻するドイツ人と中国人の間でタンデムペアが作られている。

パートナーを見つけるのは、日本語教師が自分の生徒に頼まれて、知っている日本人を紹介する、というパターンが多い。日本人から頼まれて生徒に伝えるという逆のケースもあろう。そのほか、掲示板や新聞広告をとおして、自分でタンデムの相手を探している学習者もいる。

エアフルト大学では、言語センターのスタッフ二人がタンデムを担当し、パートナーの仲介をおこなっている。基本的には、学内でドイツ人学生と留学生のペアを作るわけであるが、学外からの希望者にも対応している。大学のウェブサイトからも申し込み、年齢・出身地・専攻など基本情報のほか、第二希望までの学習言語とレベル、複数名のパートナーを希望するかどうか、滞在期間などの記入項目がある<sup>5</sup>。需要と供給がアンバランスになるのは避けがたく、対面タンデムのパートナーが見つからない場合、Eメールや Skype を用いたビデオ通信などの遠隔地タンデムも紹介もしている。この遠隔地タンデムは、ポッフム市を基点として世界中を対象に行われるとされているが、筆者自身申し込みのプロセスを試行した限りでは、たとえば日本語を学びたい英語話者を紹介されるのは数週間、場合によってはもっと長く待機しなければならないようである<sup>6</sup>。

そのほか、インターネットにはタンデムパートナーを紹介するエイジェンシーの類や情報交換の掲示板の類もある。匿名性の高いネット上において、危険性がないとはいえないところに、積極的な利用が阻まれる要因もある。実際には、それで犯罪にいたるような問題が公になったことはこれまでにないと理解している。

## 3. タンデム学習の特徴

タンデム学習の特徴としては、定義としてもあるように、相互学習であり、自分が教わると同時に、自分も相手に教える。パートナーの個人としての背景や国の文化・習慣などを尊重する。教室でのペアワークとは異なり、学習者自身が舵を取る自律協働学習である。

そのような学習形態を反映して、対面タンデムにせよ、遠隔地タンデムにせよ、オーセンティックなコミュニケーションであり、いずれのメディアによっても、学習対象になる言語のスタイルは、話しことばの傾向が強い。(図1参照)

<sup>5</sup> <http://www2.uni-erfurt.de/romanistik/tandem>

<sup>6</sup> <http://ta.slf.rub.de/pa/pr/anm.php?lang=en>

図1 メディアとスタイル (Christa Durscheid 2002:50)

	話しことば <-----> 書きことば
非電子化 書くというメディア	カードメッセージ 法令文書
電子化	チャット 携帯メール、Eメール
非電子化 話すというメディア	講演
電子化	電話

筆者が実施した日本語コース受講者に対する小さなアンケートにおいて、話し言葉を覚えたいという学習者の要望を多くみた。漫画やアニメやポップソングで日本語に接する若い世代が、同年代の若者が話す生きた日本語を学びたいというのも、タンデム学習に対する動機になっているのかもしれない。ここに、ふだん通常授業ではあまり扱わない分野を補う可能性もあると思う。

#### 4. タンデム学習の利点と問題点

##### 4.1. タンデムの利点

タンデムの利点としては、個人が主体なので、自分のペースで学べること、コミュニカティブで、生活環境に直結した生きたことばに接することができること、異文化理解にもつながり、創造的で楽しく、なにより、コストがかからないということがあげられよう。理想的な語学学習の形態であると、タンデムの研修や教材を開発販売している機関もあるほどだ<sup>7</sup>。

そういう利点を生かすべく、教室でもタンデムを紹介しているが、実際に申し込むのは一部に過ぎないようだ。それはなぜか。担当者のところまで行くのが億劫で、ついそのままになったのか、どうせそれほどためにならないと思っているからか、教室の授業だけで十分と思っているのか、日本語がまだ話せないからできないと思っているのか、いろいろな理由はあろうけれど、かつて日本の提携校と E-mail exchange という形でリストをまわしたときは、ほぼ全員が申し込んだ。が、実際にタンデムを行ったのは、やはりごく一部だった。いずれにせよ、学習者たちはいろいろな理由で、このような利点のある学習のチャンスを逃していることに変わりはないので、まずタンデムの実態を探り、改善をめざそうという意図で調査を行った。

##### 4.2. タンデムの実態

実態調査でよく聞く声は、「続かない」「相性が合わない」「何をやればいいのかわからない」「使用言語が偏ってしまう」「楽しいが、ほんとうに語学が上達しているのか？」などである。まず浮き上がった問題点は、タンデム当事者たちに、自由意志でやる限界があるということで、時間の問題もあり、むしろ失敗例のほうが実際には多いのかもしれない。

以下は、タンデム経験の聞き取り調査で出た意見をまとめたものである。聞き取り調査は対面口頭

<sup>7</sup> [http://www.tandemcity.info/de\\_index.html](http://www.tandemcity.info/de_index.html)

とEメールによる書面との両方で行った。

否定的意見は次のようなものであった。「ボランティアだと思ってやっていた。ギブアンドテイクになっていない。」「勝手にカノジョにされていた。」「おまえは上手なんだからいい、と、下手なほうの人のためのセッションになりがちだった。」「いくら話しても上手にはならない気がした。」「文法を説明しろと言われても、できない。」「下手な話を聞いて、何か答えてくれるが、わかってくれたかどうか不明。」

肯定的意見は次のようなものであった。「毎週火曜日、日本語1時間、ドイツ語1時間やった。」「毎回テーマを決めて、単語を書きとめた。」「どちらかが専門のゼミで発表するときなどはその準備と一緒にした。」「時々延長して、一緒に料理した。ほかの友達(日独両方の学習者)も招いた。二ヶ国語でレシピ集を作った。」「歌を歌ったり、一緒にYouTubeを見たり、ことわざを覚えたり、子供の本を読んだりして、文化も学ぶことができた。」「日本語の響きに慣れて、聞き取りがよくできるようになった。」「行動規範や習慣も学ぶことができた。」「授業でよくわからなかったことも気軽に尋ねられる。そうするといろいろそれに関する日本事情も教えてくれて、ことばだけでなく、国に対する関心がいっそう高まった。」

中間的意見とでもいえるものに、次のようなものがあった。「漢字の書き順がちがうと、びっくりされた。」「最初は辞書をひいたり絵を描いたりしてコミュニケーションした。」「授業では使わない話し方だった。」「ことばはどうか知らないが、生活面で助けてもらった。」

これを見ると、否定的な意見は、漠然としているが、肯定的な意見は具体的なものが多い。ここにタンデムの成功の鍵を見ることもできる。一例を挙げれば、タンデムが続かなかった理由として、時間がないから、専門の勉強に忙しいから、というものがあるが、成功したタンデムでは、その時間がなくなる理由になることを、一緒にやって、タンデムを休む、ということ avoided したわけである。

中間的意見は、人によって、否定的にも肯定的にもなる。漢字の書き順については、「漢字の書き順が少々ちがったって、いいじゃないか、そんなおおげさな」と反感をかう場合もあるし、「漢字の書き順は本当に大切なんだ」と認識を新たにする場合もある。「絵を描いたり、言いたいことがわからなくて辞書をひいたり手間をかけるばかり」と考えるか、「こういうことも助けになった」と考えるか。授業で使わない話し方に触れて、「こういう話し言葉は悪い日本語ではないのか」と言う者もあれば、「授業で敬体であるマス・デス体を主に使うので、常体を練習する機会になってよかった」と言う者もあった。「生活面で助けてもらっただけ」に対して「生活面でも助けてもらえる相手がいてよい」など、実際に両方の意見を耳にした。ということは、だれでも、自分のタンデム経験を、ポジティブなものにすることができるのに、していない、という事実があるということだ。

## 5. 改善策

### 5.1. 原因の究明

問題点をまとめれば、タンデムをやる当事者たちにタンデムの意義が理解されていないことが挙げられよう。タンデムの方法に対する理解が乏しく、当事者にはっきりとした目的意識がない。コミュニケーションというものが、なんとなくわいわい話していればいいと思っている者もいる。Stammtischと呼ばれる、定期的にテーブルを囲んでビールでも飲みながら学習言語で話すという、タンデムよりももっとゆるい集まりの企画も定期的に行われているが、そこでさえ、コンセプトがなければいけな

いという声もある。ただことばが上手になりたい、と始めてもうまくいかない。目的がないから計画もない。自律学習と自由学習とは異なるということを明確にするために、コントロールやサポートも必要であろう。タンデムパートナーは語学の先生を通じて見つけることが多いが、紹介したらそのあとはほったらかし、という教師にも責任があるといえないが。

日本語教師の仲介について聞き取り調査をした限りでは、ほとんどが、紹介するのみで終わり、レベルの違いの考慮、その後の追跡調査などはほとんどなされていないのが事実のようである。レベルが違いすぎると、学習言語が偏ってしまいやすいのも事実なので、エアフルト大学のタンデム担当者はそこにも留意しているが、逆に、担当者がレベルの違いを理由に仲介を断ったとクレームも出た。後述するように、よいパートナーを見つける、ということはなかなか難しく、紹介する側もきめこまやかな対応が必要であろう。また、タンデム担当者が、専門的なアドバイスをどれだけしているか、あるいはできるか、というところに限界もある。現在、言語センターの二人がすべての外国語について担当している状態で、彼らには日本語の知識はない。日本語のタンデムについては、やはり日本語教師も把握しておかなければサポートもできない。では、どのようにサポートするか。

## 5.2. 学習指導・相談

第一の改善策としては、学習指導・相談を充実させることである。形式として、ひとつは、全体オリエンテーションとしてのタンデム・ゼミを行う。全外国語対象の一般的なものでよいし、また、学期終わりの振り返りのために行ってもよい。それに対し、タンデム・カウンセリングで、個別指導・相談をする。一人ずつでも、パートナーと一緒にでもいいし、グループ・カウンセリングも可能であろう。起こったトラブルにも対処できる。実際に、パートナーとうまくいってなくて困っていた例もあった。自律学習を支援するカウンセラーは、「こうしなさい」ということは言わない。学習者に問題点を気づかせて、解決法を探させる。これには教師の技量も要するであろう。教師は、教室で学習項目を教えるばかりでなく、よき相談者・カウンセラーであることも必要である。タンデム学習においては、重要な教師の役割であるといえる

パートナー探しはやはり大事で、タンデムの効果を左右する要素であるといって過言でない。一般的には、相手に対する希望を尊重し、年齢・性別・専攻・出身地などのほか、客観的および主観的なレベル、関心・興味、趣味などを共有できるか、自分の学習目標をシェアできるか、といったことまで配慮すべきである。日本語学習者の中には、日本のサブカルチャーにかなり詳しい者もいるし、大阪出身のお笑いのキャラクターを求める者もあった。対面タンデムの場合、たとえば料理・旅行などの共通の関心はその後の付き合い方もきめる。パートナーと相性が悪いと思ったら、がまんしなくてもすぐ替えて良い。相手から回答がなかったり、うまくすすまないときは、待っていないで、ほかのパートナーを探すとよい。複数の人と同時にタンデムを行っても良い。パートナーに期待しすぎないこともポイントであろう。言葉遣いや情報に間違いがあることもある。パートナーが「・・・してくれない」という他律的な態度でなく、パートナーに「・・・してもらおう」というふうに自律的にイニシアティブをとることも学ぶべきことである。また、オーセンティックなコミュニケーションということは、Teacher Talkのような作られた会話ではない。これは利点にも難点にもなり得るが、相手は語学教師ではない、という認識をしておくべきで、文法の説明などを求めた場合にうまくいかないというのがほとんどのケースである。

### 5.3. 学習の目的・計画・指針など

学習目標をパートナーとシェアするためには、自ら目的意識を育てなければいけない。まず、はじめに具体的な目標を考え、パートナーと話し合う。長期目標、短期目標というふうに期限を決める。目標は実現可能なもので、自分でまたはパートナーによって評価できるものにする。自分は何をしたいのか、学習言語でどのようなことができるようになりたいのか、そのために、どうしてタンデムがいいのか、タンデム・パートナーになにをしてほしいのか、そして、自分はパートナーに何ができるのか、ということまでお互いに話し合うとよい。

その目標を遂行するための計画を立てる。基本的には一学期単位で終わる予定にするが、更新は可能である。セッションごとに時間配分やその日の目標などをきめ、無理のない計画を立てる。必ず事前に期日を決めること。定期的に日程や時間をきめておく、というのは重要である。「また連絡する」といって別れてしまうと、次はいつになるかわからない。一方、忙しいときなど、変化する状況に対処するタンデムセッションであることも自覚すべきだ。

半分は母国語を使う。かつて日本の提携校とE-mailによる遠隔地タンデムを行ったとき、提携校側からの要請で、日本人は英語で書き、ドイツ人は日本語で書く、ということだった。が、実際には表現力に限界があり、むしろ半分ぐらいを自分の母国語で書くほうがお互いのレベルアップが図れ、コミュニケーションもうまくいくことがわかった。学習者は母語話者である相手が使う言葉からこそ多くを学ぶ。アクティブな能力とパッシブな能力に差があるのはふつうで、非母語ばかりで話を進めると、内容が幼稚にもなりやすい。話の内容のレベルを保つ意味でも母語を使うとよい。長期的な計画の場合、慣れないうちは自分の言語で、だんだん学習言語を増やしていくというのもいい方法だ。が、半分ほどにとどめておく、というのも妥当だろう。

タンデム学習のプロセスを記録することも有用である。準備段階で、目標や計画、それぞれのセッションのねらいを書いておくのはもちろんだが、実施している間に、メモを取る習慣をつける。語彙や表現などの学んだ内容、答えられなかった質問、来週持ってくるものなどの備忘録、おもしろかったこと、驚いたこと、嬉しかったことなどの個人的な振り返りや報告、そのほかチェックリストにもなるだろう。このメモをもって、タンデム・カウンセリングへ行けばよい。

## 6. 学習内容

通常の授業と並行してタンデムをしている学習者も多いが、タンデムでの学習内容と通常の授業との関係については、それほどこだわることはないと思う。通常の授業とまったく別個のものと考えなくてもよいし、別個のものでもよい。前者の場合、新しく習った表現を使ってみるとか、宿題などを手伝ってもらうなど、授業に向けて動機付けになる。時々授業でクラスメイトに向かってタンデム経験を話してもらうのもよい。通常の授業と関係なく、自分や相手にとって関心の深いテーマにしぼってもいいし、友達同士のことばで話すことも習える。タンデム学習の利点のひとつは、受講する授業がなくなった場合でも、かまわず続けられることで、生涯学習の有用な一形態としての可能性をもつものである。

タンデム学習を支援する教材や道具などは、学習者が自分で用意するし、教師の側で提供・提案できるものもある。学習者は必要に応じて、宿題や発表準備や手紙類などを、その都度学習内容にかえている。異文化に関する相手の質問に答えるため、現物が生教材にもなるし、現物を見せたくても

できないとき、レリア教材などは便利である<sup>8</sup>。また、海外の学習者が力をつけにくい聴解練習のために、ヒアリング教材もいくつかあるが、文型項目に沿った聴解教材よりも、生の日本語を母語話者と一緒に聞くのが楽しい様子である。タンデムに限らず、複数の学習者がビデオルームを占領し、ピアリスニングした例もあった。映画・ドラマ・アニメのDVDや、テレビのニュース、YouTubeなどのメディアや、初級学習者の場合は、生の録音をもとに教材化したものも有効だろう<sup>9</sup>。ライティングについては、母語話者と学習者たちが相互に添削する多言語サイトもあり、自分のタンデムパートナーに見せる前に、あらかじめ利用することもできる<sup>10</sup>。サイト上の参加者の数が多く、添削や質問の回答も比較的早いのも魅力である。

タンデム実践にあたり、学習者たちは、その日の話題をきめ、自分が話したいことや相手から聞きたいことなどを考える。テーマに沿って、質問を考えたり、語彙リストを作ったりする作業は、一緒にやってもいいし、準備としてそれぞれがやっておくのも能率が上がる。テーマを探すにはドイツ語やフランス語の教材にも多く使えるものがあるし<sup>11</sup>、日本語会話教材<sup>12</sup>なども参考にしながら具体的な内容を構想する。

そのようにして集まったカテゴリー、テーマ、タスク・質問の例を下記に示す。これは一例にすぎず、レベルによって発展の可能性を含むものである。

図2 話題のカテゴリー例

カテゴリー	テーマ	タスク・質問
相手を知る・自分について語る	町の描写	「どこから来ましたか。」「そこはどんなところですか。」
	家族	
	旅行	
情報をシェア。自分がよく知っていること(専門、趣味、特技など)について話す。相手から知りたいことをきく	日本人の名前	「よくある名前は?」「どういう意味ですか。」「男か女か、どうしてわかりますか?」
	音楽	
	外国の暮らし	
考え方や主張	テレビ	「テレビを見るのはよくないと思います。どう思いますか」
	世界の未来	
	禁煙	
共同作業で何かをやる	レシピ集	「どこの料理?」「材料は?」「作り方は?」

<sup>8</sup> 国際交流基金 2006 および 2008

<sup>9</sup> たとえば、嶋田和子(編)浅野陽子 2009

<sup>10</sup> 利用しやすいのは、<http://lang-8.com/>

<sup>11</sup> たとえばドイツ語教材 Aufderstrasse, Hartmut u.a. 1992, 1993, 1994 や、Tandem で使えるタスクを集めた Tandem Server と呼ばれるものもある。

<http://www.slf.ruhr-uni-bochum.de/tandem/inh01-eng.html>

<sup>12</sup> たとえば西口 2006

	大学の紹介	
	プレゼンテーション	

まずカテゴリーをおおまかに分け、それぞれのカテゴリーでいろいろな場面や話題などのテーマに分ける。タンデムの相手と知り合ったら、お互いについての情報や身の回りの話題からはじめるのが妥当であろう。初級の段階で十分にコミュニケーションできるテーマからはじめて、それぞれのテーマで具体的な学習内容を質問形式やタスクの形でこなす。カテゴリーがオーバーラップすることもある。

### 学習例（１）

たとえば家族というテーマで話すことにしよう。たとえば次のような話題が考えられる。

- 家族構成、住居環境
- 親や祖父母との関係
- 日常生活（食事の時間、帰宅の時間など）
- 子供のお小遣いやアルバイトについて。家族内のお金の関係
- 家庭内の仕事の分担。誰が何をするか。子供の手伝い
- 休みの日の過ごし方。一緒・別々など
- 子供が家を出るのはどういうときか。

家族のあり方や家族に対する考え方については、国によってずいぶん違うことも多い。自分では思い浮かばないような質問をパートナーがしてきて驚く、ということもあるはずだ。あるドイツ人学生がまず日本人学生にむけた質問は次のようなものであった。「あなたは結婚していますか。」「子供がいますか。何人いますか。」

エアフルト大学に在学中の学生には、結婚していたり、子供がいたり、という学生も珍しくない。そのような事情を知らないと、日本人学生はこのような質問は思い浮かばない。しかも、ドイツ人に同じ質問をしたら、「結婚していますか」という質問には「いいえ」と答えたのに、「子供がいますか」という質問に「はい」と答えられて、言葉はわかるのに、内容がどうしても理解できなかったという逸話もある。このように、タンデムを通して、パートナーの言語を知るとともに、社会事情や異文化に肌で触れることができる。

### 学習例（２）

タンデム学習の内容の第二の例は、次のようなテキストを利用するものである。

Japanische Sprichwörter/Redewendungen: Im Deutschen ist die Redewendung „jemandem Honig um den Bart (oder ums Maul) schmieren“ eine sehr anschauliche Umschreibung dafür, eine Person mit Schmeicheleien zu umgarnen. Dieses Verhalten lässt sich auch im Japanischen treffend zum Ausdruck bringen mit: „胡麻を播る“ (Goma o suru). Wörtlich übersetzt bedeutet dies: „Den Sesam zerreiben“. Wer einmal den intensiven und aromatischen Geruch von zerriebenem Sesam kennen gelernt hat, wird verstehen, warum man in Japan diese Redewendung benutzt. <sup>13</sup>

<sup>13</sup> 在独日本大使館のメールマガジンより

ドイツの日本大使館はメールマガジンを月 2 回出していて、日本の新聞の内容をドイツ語で紹介したり、行事の案内を行ったりしている。そのなかで日本語のことわざやイディオムを説明するシリーズからの引用である。コンパクトで的を射た説明であり、ドイツ語の対応する慣用表現も紹介してある。海外の日本語学習者が在住のタンデムパートナーを探す場合、日本人の語学力のほうが上で、会話がアンバランスになることも多い。イディオムやことわざは、学習レベルとしては高いのがふつうだが、このような短い表現を知ることが、初級学習者も喜んでする様子である。ドイツ語と日本語を切って別々に学ばなくても、こういう材料を用いれば、日本人はドイツ語本文を読んで理解しながら、ドイツ人は日本語の表現について考える、という同時に両者が勉強することも可能である。いきなり、「胡麻を揉む」とは、何ですか？とよばれると、きかれたほうも、答えに詰まって、そのあとが続かなくなってしまうおそれもある。両者とも欲求不満のままその時間が終わる、ということになりかねない。ことわざには、たいてい同じことを表すものがあり、しかも日本語とドイツ語とでは表現が全く違うことも多いので（上記の「胡麻を揉む」に対応するドイツ語慣用表現は「髭に蜂蜜を塗る」）、それを知るのも楽しい。

このようなテキストを用いて、日本人パートナーにこの表現をどのように使うか、自分の言語にも同じ意味のことわざやイディオムがあるか。どちらがうか、などと、自然に発展させる。理解できたら、例文も作って、自分の思い出・作品集に入れる。

## 7. 学習成果の共有

自作の質問集や語彙集、学習に使用したテキストや資料などは保存して、ほかのタンデム学習者と共有するのも効果的である。補足したり、修正したりしていくうちに、勉強のし方も学ぶことになる。将来的にはデータベースのような形にして、タスクが必要に応じて引き出せるようにしておけるようにできればいいと考えているが、現在はコンテンツを集めている段階である。電子化しておく、遠隔地タンデムの場合でも容易に応用できるし、データベースの構築ができれば、テーマ別に整理しやすい。サーバーに集めれば、学習者自身が入力や書き込みをし、教師も学習状態や具体的な内容を把握できよう。現段階では、学習成果・情報の共有として、まず、タンデムでやったことを記録として残す。学習資料をテーマ別に学習者同士でシェアする。調整しながらデータを増やしていく。そして、タンデムの経験・記録を公開し、タンデムゼミなどで振り返りや話し合いをする。うまくいかない場合があったとしても、さらに改善できることを皆で考えながら、タンデムを続けていくことに意義があると考える。

CEFR・B1 レベルの口述試験の一環で、学習言語によるプレゼンテーションをさせるが、その場合、旅行とか趣味とかのテーマに加えて、タンデム経験などもよいテーマである。発表の練習をタンデムパートナーとする。このプレゼンテーションは公開試験で、ほかの学習者や教師、在住日本人なども招いてもよい。このように、タンデムを、通常の授業の枠のどこかにとりこむこともできる。昨年号では提携校訪問時の体験交流型のプロジェクトワークの一環で行ったプレゼンテーションを紹介したが、今後もいろいろな学習形態を組み合わせる可能性が探れると考える。

## 8. まとめ

タンデムで得ることは、語学の上達のみでなく、異文化理解に貢献し、語学学習のし方を身につけることである。さらに付加価値として、計画と実行のオーガナイズや情報収集、チームワークによる

学習や問題処理能力の育成にも役立つ。つまり、自律学習能力に必要な能力を養うといってもよい。

タンデム学習の実態についてはじめに述べた問題点をもう一度ふりかえってみて、解決の糸口になることを確認しよう。タンデムを続かせるためには、学期単位の学習計画を導入する。パートナーと相性が合わないなど、問題のある場合は学習相談を活用すればよい。使用言語が偏ってしまうのは、セッション単位の学習計画、教材の工夫で克服できる。タンデムで何をやればいいのかわからない、ということがないように、学習のし方、テクニックやストラテジーを学べるような自律学習能力の育成が必要であり、それを支援するツールの整備も急務である。そのためには、学習目標の意識化が必要であり、それができていれば、語学がほんとうに上達しているということも実感できるはずである。学習の記録、作品集をしあげ、目に見える成果も達成感につながる。自分はこの外国語でどうなりたいたいのか、どんなことができるようになりたいのか、自己目標を意識し、それをパートナーとシェアする。パートナーのニーズも理解する。そうやってパートナーシップを育てつつ、楽しい相互学習をめざしたい。

自律学習は教師のコントロール、カウンセリング、サポートを必要とする。これは、今回の調査と実践を通して実感したことである。コントロールやサポートによって、学習者自身の自律学習能力を養成することができる。しかし、コントロールやサポートは、個別の学習者によって異なり、段階がある。介入のしすぎもよくない。それぞれの学習者に対して、一辺倒ではなく、状況に応じて最適に対処されたい。そして、教師の裁量によって、タンデム学習を、教室の授業や他律学習的練習問題などと組み合わせることも可能である。ここで確認された教師の役割は、学習相談を受けるカウンセラーであり、教室の授業や他の活動と組み合わせるコーディネーターであり、そして何よりも、学習者の自律学習を助けるサポーターである。

前評判は良かったものの実態はなかなか不毛でもあったタンデムは、介入のし方によってもっと可能性を秘めている。せっかくのタンデム、有効に使って、学習意欲・学習効果の向上をはかりたい。さらに、タンデム推奨は、タンデムによって外国語能力を伸ばすということはもちろんだが、タンデムをやる人の自律学習能力を育てる、ということ自体も、目的になりうる。その能力は、語学力を超えた、根本的にあらゆる分野において応用が可能な人的能力にいたるにちがいない。

## 参考文献

- Aufderstrase, Hartmut u.a. 1992 *Themen neu 1. Lehrwerk für Deutsch als Fremdsprache. Kursbuch.* München: Huber
- Aufderstrase, Hartmut u.a. 1993 *Themen neu 2. Lehrwerk für Deutsch als Fremdsprache. Kursbuch.* München: Huber
- Aufderstrase, Hartmut u.a. 1994 *Themen neu 3. Lehrwerk für Deutsch als Fremdsprache. Kursbuch.* München: Huber
- Brammerts, Helmut 2001 Autonomes Sprachlernen im Tandem: Entwicklung eines Konzepts. In: Brammerts, Helmut / Kleppin, Karin (Hrsg.) 2001 *Selbstgesteuertes Sprachlernen im Tandem. Ein Handbuch.* Tübingen: Stauffenburg Verlag.9-16
- Durscheid, Christa 2002 Einführung in die Schriftlinguistik. Wiesbaden:VS Verlag.
- Lewis, Tim & Walker, Lesley (Eds.) 2003 *Autonomous language learning in tandem.* Sheffield: Academy Electronic Publications.

西口光一（監修）沢田幸子・福家枝里・武田みゆき・三輪香織 2006「日本語おしゃべりのたね」スリーエーネットワーク

仁科陽江 2010「海外における初級学習者のための体験交流活動型コースデザイン」『日本語教育連絡会議論文集 Vol.22』108-120

嶋田和子（編）浅野陽子 2009.「Live from Tokyo 生の日本語を聴き取ろう！」ジャパンタイムズ

禰宜田直子（監修）2008「きせつの行事りょうり。キッズレシピ」小学館

国際交流基金 2006「『レアリア・生教材』アイデア帳」スリーエーネットワーク

国際交流基金 2008「『レアリア・生教材』コレクション CD-ROM ブック」スリーエーネットワーク